

2013年5月11日

NPO法人インテリジェンス研究所  
第2回諜報研究会

政軍関係論から見たインテリジェンス—その統制に注目して—

小森雄太（福井大学）

1. 自己紹介と本報告の目的
- 10 1-1.自己紹介
  
- 1-2.問題の所在
  
- 1-3.インテリジェンスとはなにか？
  
2. 情報機関に対する統制の必要性
- 20 2-1. なぜ、統制が必要なのか？
  
- 2-2.米英における情報機関の統制
  
3. 情報機関に対するあるべき統制
- 3-1.政軍関係論における文民統制
  
- 30 3-2.情報機関に対するあるべき統制
  
4. 結論と今後の課題

引用・参考資料

- 阿部齊、内田満、高柳先男（1999）『現代政治学小事典〔新版〕』有斐閣。
- 岩下哲典（2011）『日本のインテリジェンス—江戸から近・現代へ』右文書院。
- 太田文雄（2008）『インテリジェンスと国際情勢分析【改訂新版】』芙蓉書房出版。
- 大野直樹（2012）『冷戦下CIAのインテリジェンス—トルーマン政権の戦略策定過程—』ミネルヴァ書房。
- 大森義夫（2005）『日本のインテリジェンス機関』文春新書。
- 奥田泰広（2011）『国家戦略とインテリジェンス いま日本がイギリスから学ぶべきこと』PHP研究所。
- 10 奥田泰広（2012）「イギリスにおける情報重視の戦略文化—秘密活動局設置に至る軍部及び国防衛委員会における検討を中心に—」『国際政治』第167号130-143頁。
- 落合浩太郎（2005）『CIA 失敗の研究』文春新書。
- 加藤陽子（2006）「政辞考（まつりごとのことば）—政治家の文章と昭和史（6）英帝国の欺瞞、近衛の怒り—」『現代』第40巻第4号176-179頁。
- 仮野忠男（2010）『亡国のインテリジェンス』日本文芸社。
- 北岡元（2006）『インテリジェンスの歴史—水晶玉を覗こうとする者たち』慶應義塾大学出版会。
- 慶應義塾大学地域研究グループ編（1968）『変動期における軍部と軍隊』慶應通信。
- 郷田豊、李鐘學、杉之尾宣生他（2001）『『戦争論』の読み方—クラウゼヴィッツの現代的意義—』芙蓉書房出版。
- 20 小谷賢（2004）『イギリスの情報外交 インテリジェンスとは何か』PHP新書。
- 小谷賢編著（2007）『世界のインテリジェンス 21世紀の情報戦争を読む』PHP研究所。
- 小谷賢（2007）『日本軍のインテリジェンス なぜ情報が活かされないのか』講談社選書メチエ。
- 小谷賢（2012）『インテリジェンス—国家・組織は情報をいかに扱うべきか』ちくま学芸文庫。
- 小林良樹（2011）『インテリジェンスの基礎理論』立花書房。
- 小林良樹（2012）「インテリジェンス・コミュニティに対する民主的統制の制度—政治的、歴史的、社会的文化の影響—」『国際政治』第167号57-71頁。
- 小森雄太（2012）「近代日本における政軍関係の新制度論的分析」明治大学博士学位論文。
- 小森雄太（2013）「政軍関係研究試論—戦術・作戦領域への文民の過剰関与に注目して—」『政経研究』第49巻第4号579-605頁。
- 30 佐藤優（2007）『国家の罨 外務省のラスプーチンと呼ばれて』新潮文庫。
- 佐藤優（2011）『世界インテリジェンス事件史 祖国日本よ、新・帝国主義時代を生き残れ！』双葉社。
- ジャパン・ミリタリーレビュー編（2007）「スパイ映画でわかる諜報世界」『ワールド・インテリジェンス』第4号。

- 情報史研究会編『情報史研究』各号。
- 情報史研究会編(2008)『名著で学ぶインテリジェンス』日本経済新聞出版社。
- 鈴木滋(2006)「自衛隊の統合運用—統合幕僚組織の機能強化をめぐる経緯を中心に—」『レファレンス』平成18年7月号121-142頁。
- 手嶋龍一、佐藤優(2006)『インテリジェンス 武器なき戦争』幻冬舎新書。
- 手嶋龍一(2010)『インテリジェンスの賢者たち』新潮文庫。
- 中川八洋(1996)「文民の過剰優位と国益阻害—政軍関係における、『戦後』の『戦前』—」『新防衛論集』第24巻第1号35-55頁。
- 中西輝政(2010)『情報亡国の危機』東洋経済新報社。
- 10 中西輝政、小谷賢(2012)『増補新装版 インテリジェンスの20世紀—情報史から見た国際政治』千倉書房。
- 廣瀬克哉(1989)『官僚と軍人 文民統制の限界』岩波書店。
- 廣瀬淳子(2012)「アメリカの情報機関と連邦議会の監視機能の強化—2010年度以降の情報機関授権法—」『外国の立法』第252号137-146頁。
- 古川純(1984)「歴史としての防衛二法—「シビリアン・コントロール」の原点と現点—」『法律時報』56巻6号36-43頁。
- 防衛省編(2012)『平成24年度防衛白書』。
- 細谷千博(1988)『両大戦間の日本外交 1914-1945』岩波書店。
- 前坂俊之(2010)『明治三十七年のインテリジェンス外交 戦争をいかに終わらせるか』祥伝社
- 20 新書。
- 三浦瑠麗(2012)『シビリアンの戦争 デモクラシーが攻撃的になるとき』岩波書店。
- 三谷太一郎(2010)『近代日本の戦争と政治(新版)』岩波書店。
- 宮崎弘毅(1977)「防衛二法と防衛庁中央機構(その1)」『国防』第26巻第6号94-106頁。
- 宮杉浩泰(2009)「在外武官(大公使)電情報網一覧表にみる戦時日本の情報活動」『政経研究』第46巻第2号56-72頁。
- 宮本満治(2005)「ラスウェルのギャリソン・ステート論」『政経研究』第41巻第4号267-294頁。
- 吉田一彦(2008)『知られざるインテリジェンスの世界 世界を動かす智慧の戦い』PHP研究所。
- 早稲田大学20世紀メディア研究所編『Intelligence』各号。
- 30 渡邊齊志(2006)「ドイツにおける議会による情報機関の統制」『外国の立法』第230号124-131頁。
- M.M. ローエンタール(茂田宏監訳)(2011)『インテリジェンス—機密から政策へ』慶應義塾大学出版会。
- G. トーマス(玉置悟訳)(2010)『インテリジェンス間の戦争—イギリス情報部が見た「世界の

謀略」100年』講談社。

C. P. G. クラウゼヴィッツ (清水多吉訳) (2001) 『戦争論 (上)』 中公文庫 BIBLIO。

M. ドブズ (布施由紀子訳) (2010) 『核時計零時1分前 キューバ危機13日間のカウントダウン』 日本放送出版協会。

A. ゴールドファーブ, M. リトビネンコ (加賀山卓朗訳) (2007) 『リトビネンコ暗殺』 早川書房。

A. H. ジョミニ (佐藤徳太郎訳) (2001) 『戦争概論』 中公文庫。

N. マキャヴェッリ (佐々木毅訳) (2004) 『君主論』 講談社学術文庫。

プラトン (藤沢令夫訳) 『国家 (上)』 (2008) 岩波文庫。

L. スミス (佐上武弘訳) (1954) 『軍事力と民主主義』 法政大学出版局。

- 10 A. C. H. C. トクヴィル (松本礼二訳) (2008) 『アメリカのデモクラシー 第2巻 (下)』 岩波文庫。

Finer, S. E. (2002) *the Man on Horseback: the Role of the Military in Politics* (New Brunswick: Transaction Publishers).

Huntington, S. P. (1985) *the Soldier and the State* (Cambridge: Harvard University Press) (in original 1957). 市川良一訳 (2008) 『軍人と国家 (新装版)』 原書房。

Huntington, S. P. (1968) *Political Order in Changing Societies* (New Haven: Yale University Press). 内山秀夫訳 (1972) 『変革期社会の政治秩序 (上)』 (サイマル出版会)。

Janowitz, M. (1964) *The military in the political development of new nations: an essay in comparative analysis* (Chicago: University of Chicago Press). 張明雄訳 (1968) 『新興国と

- 20 軍部』 世界思想社。

Kuromiya, H. and Mamouliia, G. (2009) "Anti-Russian and Anti-Soviet Subversion: The Caucasian-Japanese Nexus, 1904-1945," *Europe-Asia Studies*, Vol.61, No.8, pp. 1415-1440.

Lasswell, H. D. (1941) "Garrison State," *American Journal of Sociology*, Vol. 46, No. 4, pp. 455-468.

Lasswell, H. D. (1997) *Essays on the garrison state* (New Brunswick: Transaction Publishers)

Mahan, A. T. (1980) *the Influence of Sea Power upon History 1660-1805* (London: Hamlyn) (in original 1890). 北村謙一訳 (2008) 『マハン海上権力史論 (新装版)』 原書房。

- 30 Perlmutter, A. (1977) *The Military and Politics in Modern Times: on professionals, praetorians, and revolutionary soldiers* (New Haven: Yale University Press).

新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会 (第7回) 資料 1 「情報と情報保全」 (<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/shin-ampoboueie2010/dai7/siryou1.pdf>) (2013年4月16日検索)。

2013年5月11日

行政改革会議法務省説明資料「(参考) 外国の主な情報・団体規制機関の所属組織等」首相官邸ホームページ (<http://www.kantei.go.jp/jp/gyokaku/houmu616.html>) (2013年4月16日検索)。

The Intelligence and Security Committee Official Website

(<http://isc.independent.gov.uk/>) (22/04/2013 last accessed).

The Intelligence Community Official Website

(<http://www.intelligence.gov/about-the-intelligence-community/>) (22/04/2013).